

ユニバーサル・カウンタ

SC7205/6/7

SC-7100, SC-7200 シリーズは、岩通計測の商標です。

	品 番	GP-IB ボード	価 格	動作環境
1 台	W32-SC72001-R	ラトックシステム社	55,000 円 (消費税は含まれておりません。)	Win98SE/Me Win 2000/XP Excel2000 Excel2002/2003
	W32-SC72001-C	コンテック社		
	W32-SC72001-N	NI 社		
2 台	W32-SC72002-R	ラトックシステム社	85,000 円 (消費税は含まれておりません。)	
	W32-SC72002-C	コンテック社		
	W32-SC72002-N	NI 社		
5 台	W32-SC72005-R	ラトックシステム社	125,000 円 (消費税は含まれておりません。)	
	W32-SC72005-C	コンテック社		
	W32-SC72005-N	NI 社		
使用できる機種 SC-7205,7206,7207 SC-7101,7102,7103,7104 SC-7201,7202,7203,7204				



機能

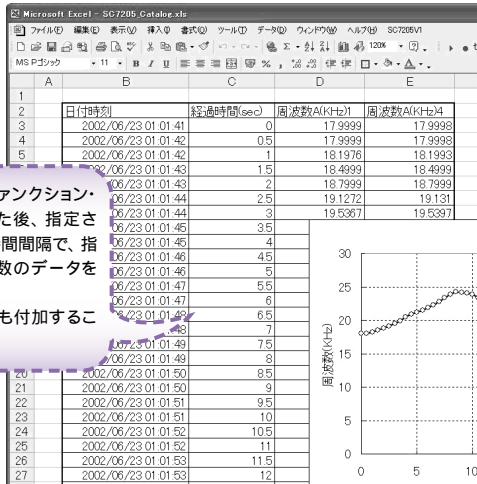
データロガーとしての活用

指定された時間間隔で指定された個数のデータをリアルタイムに Excel シートに取込みます。ファンクション等の切替は全て自動的におこないます。

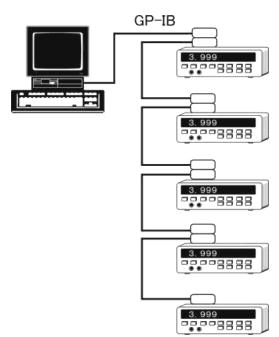
製品検査への活用

被測定物を取り換えながら、個々のデータを Excel シートに取込みます。

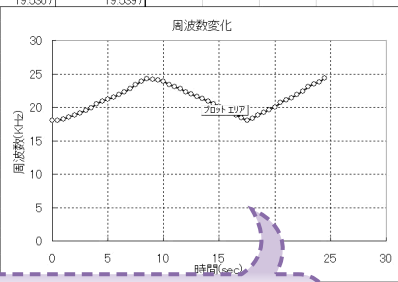
概要



本プログラムは Excel 上のアドインとして動作します。Excel 上から本アドインを起動すると、Excel シート上に、このウィンドウが現われます。ファンクション、ゲートタイム、時間間隔、取込回数等を設定し「START」ボタンをクリックするとデータの取込みを開始します。



スタートすると、ファンクション・ゲート時間設定した後、指定されたサンプリング時間間隔で、指定されたサンプル数のデータを取込みます。必要なら日付時刻も付加することもできます。



Excel シートに取込んだデータは、キーボードから入力したデータと同じように、Excel の機能を利用して、作図・編集・計算等を自由に行うことができます。また、事前にデータが取込まれる領域を Excel のグラフウィザードで設定しておけば、データ取込とグラフ化がリアルタイムに行えます。本アドインに自動グラフ作図機能はありませんので、Excel のグラフウィザードを使用して作図してください。

操作説明

注1) SC7205,7206,7207 のデリミタは、LF+EOI に設定してください。その他は、CR/LF+EOI に設定してください。

測定器からデータの取込を開始します。「PAUSE」を先に押してから「START」を押すとスポット測定モードになります。

測定器の型式を設定します。

測定するファンクションを設定します。

測定値に演算処理して、Excel に入力する場合にチェックを付けます。

演算処理した結果を Excel シートに入力する場合、演算係数 A, B と、その単位を入力します。
入力値 = (測定値 - 係数 B) * 係数 A

データを取込む時間間隔を入力します。ここで入力した時間と実際の時間間隔では若干の差異が発生します。何も入力が無い場合やゼロが入力された場合は、最速でデータを取り込みます。入力できる最大時間は 3,600 秒です。

データを取込む回数を指定します。但し、「STOP」ボタンでいつでも中断できます。また、何も入力されていないときは、200,000 回と解釈されます。入力できる最大回数は、200,000 回です。

GP-IB で接続したその他の測定器からのデータを同期を取って取込む場合にチェックを付けます。(詳細は次ページを参照)

データの取込を一時中止します。もう一度クリックすると、取込を再開します。

データの取込を停止します。

「PAUSE」中、有効となり、クリックする毎にデータを取り込みます。

測定条件を入力する機器番号を選択します。1 台用のソフトでは表示はありません。

使用する場合はチェックを付けます。1 台用のソフトでは表示はありません。

A, B 各チャンネルの測定条件の詳細設定を入力します。SC-7205, 7206, 7207 の型式が選択された場合だけ表示されます。

測定器本体で設定した GP-IB アドレスと同じ値を設定します。

ゲート時間を設定します。本ソフトを使用してデータ取り込みを行なう場合、「SGL」が選択可能なファンクションでは、通常「SGL」を選択します。

Excel へ入力する時の単位を設定します。係数演算を行わない場合に設定が可能です。

リアル表示

チェックを付けない場合は、全ての測定器からのデータを取得した後、一括してExcelシートへ入力しますが、チェックを付けると、測定器からのデータの受信と同時にExcelに測定データを入力します。従いまして、Excelへのデータ入力順序は、早くデータを受信した順番になります。測定器1台用のソフトでは、この機能は意味を持ちません。

ヘッダ

入力した全ての測定条件をファイルに保存したり、読み出したりします。

スクロール

最初のデータ取込時、測定項目名等のヘッダを付加します。

タイムスタンプ

データの入力と共にシートをスクロールします。

経過時間

データに日付時刻を付加します。

外部測定器使用

測定開始後の経過時間を付加します。

END

A,Bチャンネルの詳細設定

各チャンネルの入力カップリングを選択します。

各チャンネルのトリガスローブを選択します。

ストップ・インビット値を入力します。(Bチャンネルだけ)

トリガをオートにする場合はチェックを付けます。

トリガの電圧レベルを入力します。

ローパスフィルタをONにする場合はチェックを付けます。

アッテネータをONにする場合はチェックを付けます。

注)ここで設定できない設定項目は、手動で設定してください。

QUIT

スポット専用測定モードの使用方法

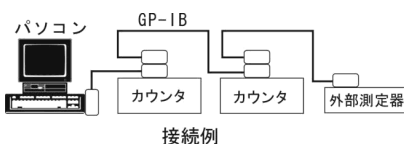
「PAUSE」ボタンを先にクリックして、その後「START」ボタンをクリックすると「スポット測定モード」になります。測定器の設定が行われた後、「SPOT」ボタンのクリック待ちとなります。「SPOT」ボタンをクリックする毎にデータがExcelシートに取込まれます。この時「SPOT」ボタンをクリックする代わりに「スペース」キーを押しても同様の結果となります。この「スポット測定モード」では、「経過時間」の欄には1,2,3...と「連続番号」が入力されます。

例えば、被測定物を取り換えながら、個々の被測定物の測定を行う場合に便利です。「スポット専用測定モード」を終了するためには、「STOP」ボタンをクリックします。

外部測定器 (マルチメータ等) の設定方法

外部測定器とはGP-IBでパソコンと接続されている必要があります。(下図)外部測定器から送られてくるデータのフォーマットは、ASCIIであり、複数のデータの場合 (Max 10 個) データ間はコマンドで区切られている必要があります。

注)外部測定器からのデータ取り込みは、全ての測定器との通信を保証するものではありません。



外部測定器のGP-IBアドレスを設定します。

測定器のデリミタを設定します。通常は、LF+EOIです。

測定開始前に、測定器に送信するコマンドがある場合は、ここに入力します。ファンクションやレンジ切換えのコマンドを入力します。通常は空欄です。

もし、外部測定器からデータを受け取る時、クエリコマンドを事前に送信する必要がある時、ここに送信するクエリコマンドを入力します。ほとんどの場合、空欄でOKです。もし、マルチメータがSCPIコマンド準拠のものでしたら、下記のコマンドのどれかが使用されます。
:READ? :FETCH? :MEAS?

外部測定器のデータ受信時にトリガが必要な時、チェックを付けます。

「GET」、「*TRG」、「任意コマンド」からトリガの方法を選択します。通常は、「GET」の選択をします。「任意コマンド」を選択した場合は、トリガコマンドをテキストボックスに入力します。

外部測定器のデータに演算処理を行うときにチェックします。複数のデータが受信された場合は、その全てのデータに、下記に入力した演算が行われます。

取り込んだデータに、下記演算を行った後、Excelへ入力します。Excelへの入力値 = (測定器データ - B) * A

ヘッダとしてExcelへ入力する事項をここに入力します。空欄の場合、「外部測定器」が入力されます。

演算実行

係数 A 1.0

係数 B 0.0

単位 User

測定値に、下記の演算が行われた後、Excelへ入力されます。入力値 = (測定値 - B) * A

QUIT